



平成 27 年度

公立中学校 1 年生～3 年生にかけての英語に関する基本調査：

言語・動機付け・情意要因に関する実態調査

---

公立中学生の英語学習に対する「つまずき」を予防するために

大阪大学大学院言語文化研究科  
西田理恵子



## 目次

1. 序章
2. 先行研究
  - 2.1 動機づけ
  - 2.2 コミュニケーションへの積極性
3. 本研究の目的
4. 調査対象者：中学1年生
  - 4.1 調査対象者
  - 4.2 調査実施時期
5. 研究結果
  - 5.1 調査結果1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して
  - 5.2 調査結果2：自由記述項目（つまずき）に関して
    - 5.2.1 好む・苦手な活動に関する結果
    - 5.2.2 分析結果：つまずきの意識に関して
6. 調査対象者：中学2年生
  - 6.1 調査対象者
7. 研究結果
  - 6.1 調査結果1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して
  - 6.2 調査結果2：自由記述項目（つまずき）に関して
    - 6.2.1 好む・苦手な活動に関する結果
    - 6.2.2 分析結果：つまずきの意識に関して
8. 調査対象者：中学3年生
  - 8.1 調査対象者
9. 調査結果
  - 9.1 調査結果1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して
  - 9.2 調査結果2：自由記述項目（つまずき）に関して
    - 9.2.1 好む・苦手な活動に関する結果
    - 9.2.2 分析結果：つまずきの意識に関して
10. 全体考察
11. 今後の展望
12. 参考文献
13. APPENDIX A



## 1. 序章

グローバル化に伴って私たちが日々共有する情報は加速化し、人々は国境を超えて移動を行い、様々な文化的背景を有する人たちと時間と場所を共有し接触している。国内においても、あらゆる場所でアジア諸国をはじめとした異なる文化的背景を持つ人々と出会い、言語や文化を融合しながら多文化を共生する時代を生きているといえる。このような時代の中で、未来を生き抜く人々には、グローバル化に伴って国外に対して自分の意見を発信していく力、国内においては異なる文化的背景を持つ人々と共生していく力が求められよう。

グローバル化・多文化共生時代の流れに伴って、文部科学省では、2020年度に向けて「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づいた新たな英語教育の在り方」が検討されている（文部科学省，2013）。今後、小学校では中学年にも外国語活動が必須化され、高学年に対しては教科化が義務付けられる方向性が示唆されている。中学校段階においても言語能力を高めていくことが求められ「身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う」「授業を英語で行うことを基本とする」（文部科学省，2013）と検討されている。今後、さらなる英語教育を高度化し、小学校・中学校段階からグローバル化に対応した英語教育の抜本的充実が計画されている。

将来構想を見据えて、現段階における文部科学省が示す新学習指導要領に基づく中学校段階での外国語活動の目的は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」であり、言語力の向上と同様に、外国語活動を介した情意的側面の向上に焦点が置かれていると言える。しかしながら、教育委員会の調査では、中学校段階での「英語嫌い」や「つまずき」が指摘されているため、生徒達のとつまずきを予防・克服し、言語面・情意面の向上を図っていくことが今後の課題として挙げられよう。

本稿では、文部科学省が目的とする言語運用能力・コミュニケーションへの積極性・異文化理解に焦点を当てて調査を行い、中学校段階での好きな活動・苦手な活動を探り、「つまずき」の原因について明らかにしていく。まず、コミュニケーションへの積極性や異文化理解は、研究史の中では、第二言語習得における個人差要因とされる動機づけの系譜を受けているため、本研究に関わる動機づけと情意要因に関する先行研究を概観し、調査結果を纏めていく。

## 2. 先行研究

### 2.1 動機づけ

第二言語習得理論の分野においては、1960年代以降に、外国語を学習する上での個人差要因の研究が数多く行われてきた。特に動機づけは個人の学習に大きな影響を及ぼすと考えられているため、半世紀以上に渡って、研究・実践報告の蓄積がある。

学習者の動機づけに関わる研究は、1960年代以降に、カナダの心理学者である R. Gardner らによって、統合的志向性・道具的指向性といった構成概念を中心として、動機づけの構造を取り上げた研究が行



われ、異文化への接触・態度・不安・自信に関する研究も実施されてきた。

1990年代以降になると、教育現場に根差した動機づけ研究の必要性が問われるようになり、教育心理学的理論の中でも主に自己決定理論(Deci & Ryan, 1985, 2002)が応用されるようになった。自己決定理論とは、Deci & Ryan (1985, 2002) が提唱した教育心理学的理論であり、内発的動機づけと外発的動機づけを基盤とする。内発的動機づけは『何かをすること自体が楽しく満足が得られるのである活動』(Yashima, 2010)であり、外発的動機づけは『何か目的があつてする活動の動機』(Yashima, 2010)である。内発的動機づけを充足するためには3つの心理的欲求があり、自律性(自ら進んで学習しているという認知)・有能性(自分は学習ができるという認知)・関係性(周囲と一緒に学習をしているという認知)が充足されると内発的動機づけに繋がるとされている。

2000年以降になると、経年データを取り入れた時間の経過に伴った動機づけの動的な変化と変化の起こるプロセスを捉える研究が行われるようになった。更に、新たな構成要素として、可能自己(Future possible self)に関する研究が行われ、L2理想自己(成りたい自分, ありたい自分)、L2義務自己(成るべき自分, あるべき自分)、努力から構成され、近年、実証研究が行われている。

## 2.2 コミュニケーションへの積極性

文部科学省の外国語活動の目的の1つが「積極的のコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」であることから、コミュニケーションへの積極性(以下、L2WTC)に関わる研究が注目を集めている。L2WTCの概念は、カナダの研究者らを中心として概念化され、MacIntyre, Clément, Dörnyei, & Noels (1998)が提唱し、第二言語で他者とコミュニケーションを図ろうとする行為を概念モデル化(ピラミッド型モデル)した。概念モデルの中には、社会的・個人的コンテクスト、情動的・認知的コンテクスト、動機傾向、状況的要因、コミュニケーション行動への意志、コミュニケーション行動(L2使用)とピラミッド型のモデル化構造となり、コミュニケーション行動の複雑さを示している(八島, 2004)。国内ではYashima (2002, 2004)が、日本人大学英語学習者においては、L2 WTCに繋がる重要な要因として、L2コミュニケーションの自信が重要な役割を形成していると報告した。Yashima (2002)の日本のEFLコンテクストにおけるWTCモデルにおいては、国際的指向性もまた、L2WTCに関わる要因であると報告している。

上記の先行研究を基盤として、本研究では中学生の動機付け・情意要因に関わる調査を実施していく。更に、中学校段階での好む活動や苦手な活動を探り、「つまずき」の原因を明らかにしていく。本調査結果は、中学生「つまずき」を予防・克服し、学習者を動機付け、ひいては、言語運用能力へと繋げるための有益な情報となろう。

## 3. 本研究の目的

本研究では、折衷計画方法を用いて、量的・質的研究方法を通して、中学生の動機付け・情意要因に関わる傾向を捉えていく。質問紙調査を用いて、中学生の情意の傾向を明らかにし、自由記述を通して、より詳細に中学生の「つまずき」に関する「声」を聞き、学習者の傾向を捉えていく。



従って本調査の目的は、以下の通りである。

- ① 中学校外国語活動において横断調査を行い、内発的動機付け・自律性・有能性・関係性・言語や文化への関心・コミュニケーションへの積極性・L2理想自己・CanDo（読む・書く）に関する全体傾向や性差の傾向を明らかにする。
- ② 中学校外国語活動における中学生の好きな活動や苦手な活動を明らかにし、「つまずき」に関わる要因を探っていく。

## 4. 調査対象者

### 4.1 調査対象者： 中学校 1 年生

調査対象者は、公立中学校 6 校に通う中学生 1 年生～3 年生である。本節では、中学 1 年生（189 名）を分析対象者とする。内訳は以下の通りである。

表 1. 調査対象者に関する内訳

公立中学校 1 年生	
A 中学校	33 名
B 中学校	33 名
C 中学校	35 名
D 中学校	25 名
E 中学校	27 名
F 中学校	39 名
合計	189 名

### 4.2 調査実施時期

2015 年 6 月に質問紙調査を実施した。質問紙の項目には、内発的動機付け・自律性・有能性・関係性(Hiromori, 2006)・言語や文化への関心(Nishida, 2008)・コミュニケーションへの積極性(Nishida & Yashima, 2009)・L2理想自己(Ryan, 2009)・Can-Do（読む・書く）(日本英語検定協会, 2003) が示され、英語のつまずきに関する意識に関する項目や自由記述項目が設けられた（APPENDIX A.参照）。質問紙の項目には 5 件法を使用している。

## 5. 研究結果

### 5.1 調査結果 1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して

中学校外国語活動において質問紙調査を行い、生徒の動機付けや情意に関わる全体傾向や性差の傾向を明らかにするために、記述統計（平均値・標準偏差）を以下に示す。質問紙項目に関わる信頼性係数も以下に示す。



記述統計結果から、中学1年生段階では、CanDo読むが高く ( $M=4.40$ ) 自律性が低い値を示した ( $M=3.12$ ) (表3、図1・図2参照)。性差比較については、Can-Do読む、Can-Do書くに差異が見られ、その後に行われた  $t$  検定においても、統計的な有意差があり、女子生徒の方が男子生徒と比較して自信がある傾向にあることを示している(表4参照)。

表2. 信頼性係数

変数	信頼性係数
自律性	α . 57
有能性	α . 77
関係性	α . 80
内発的動機付け	α . 91
言語・文化への関心	α . 70
CanDo読む	α . 81
CanDo書く	α . 79
L2WTC	α . 82
L2理想自己	α . 81

表3. 中学校1年生の全体傾向に関する記述統計

変数	平均値	標準偏差
自律性	3.12	0.78
有能性	3.31	0.83
関係性	4.02	0.72
内発的動機付け	3.69	1.19
言語・文化への関心	3.56	1.01
CanDo読む	4.40	0.72
CanDo書く	4.05	0.81
L2WTC	3.48	1.05
L2理想自己	3.58	1.03

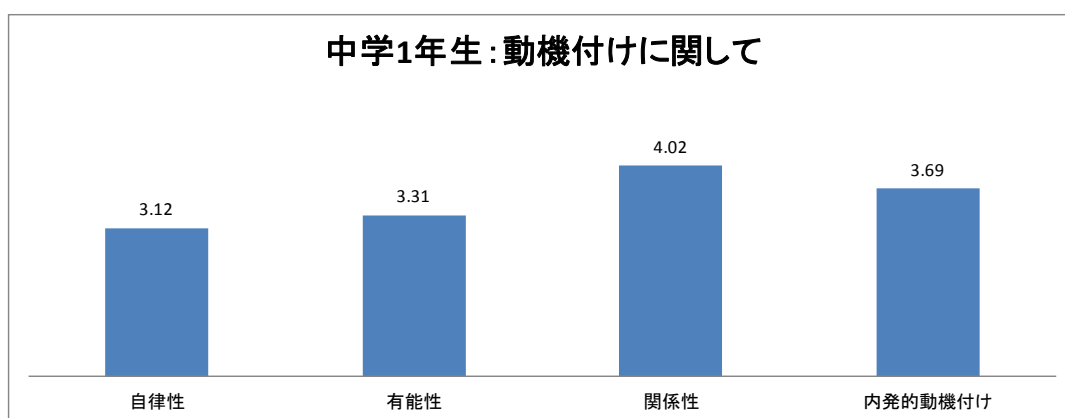


図1. 中学1年生の動機付けに関する全体傾向

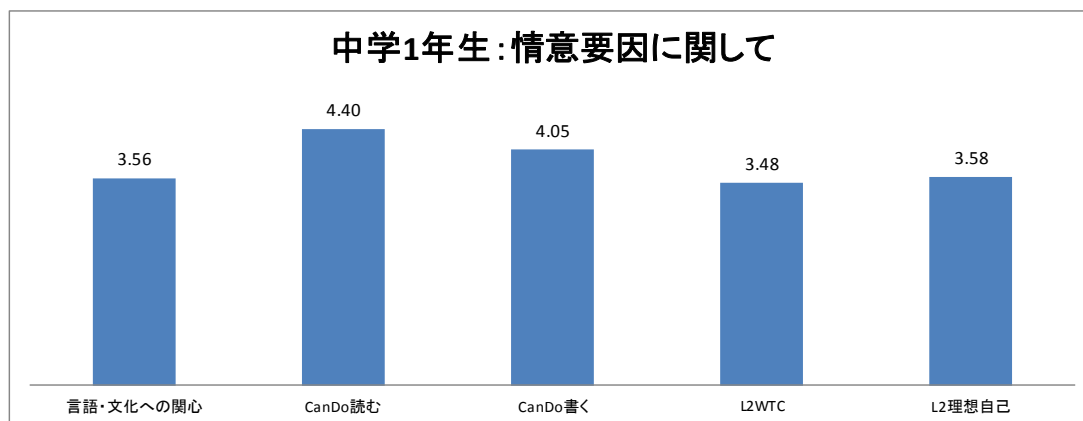


図 2. 中学 1 年生の情意に関する全体傾向

表 4. 中学校 1 年生の性差比較に関する記述統計

	性別	人数	平均値	標準偏差
自律性	男子	103	3.03	0.77
	女子	86	3.24	0.78
有能性	男子	103	3.31	0.88
	女子	86	3.31	0.76
関係性	男子	103	4.03	0.74
	女子	86	4.00	0.71
内発的動機付け	男子	103	3.76	1.12
	女子	86	3.60	1.27
言語・文化への関心	男子	103	3.61	0.98
	女子	86	3.50	1.05
CanDo読む	男子	103	4.28	0.73
	女子	86	4.54	0.69
CanDo書く	男子	103	3.92	0.83
	女子	86	4.20	0.76
L2WTC	男子	103	3.51	1.09
	女子	86	3.44	1.01
L2理想自己	男子	103	3.59	1.03
	女子	86	3.56	1.03

## 5.2 調査結果 2：自由記述項目（つまずき）に関して

### 5.2.1 好む・苦手な活動の結果

中学校外国語活動における中学生の好む活動・苦手な活動を探り、「つまずき」に関わる要因を明らかにしていくため、自由記述項目を詳細に分析していく。図 3～図 8 が示すように、英語の授業中に楽しいと感じる活動の結果として、1 人の場合は「1 人でドリルを勉強する（回答数・60）」「1 人で短文を読む（回答数・58）」であり、ペアでの活動としては「ペアで会話をする（回答数・94）」、グループの場合は「グループで会話をする（回答数・84）」であった。一方で、英語の授業中に苦手と感じる活動は、1 人の場合は「1 人で作文を書く（回答数・94）」「スピーチや発表をする（回答数・95）」、ペアの場合は「ペアで長い文を書く（回答数・67）」「ペアで文法を勉強する（回答数・61）」、グループの場合は「グループで長い文を読む（回答数・58）」「グループで文法を勉強する（回答数・49）」であった。

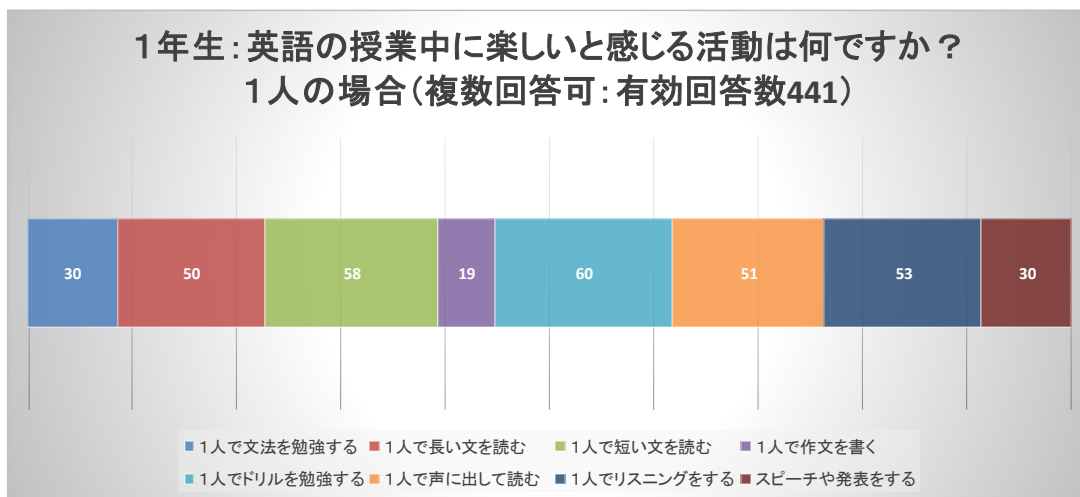


図 3. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：1人の場合

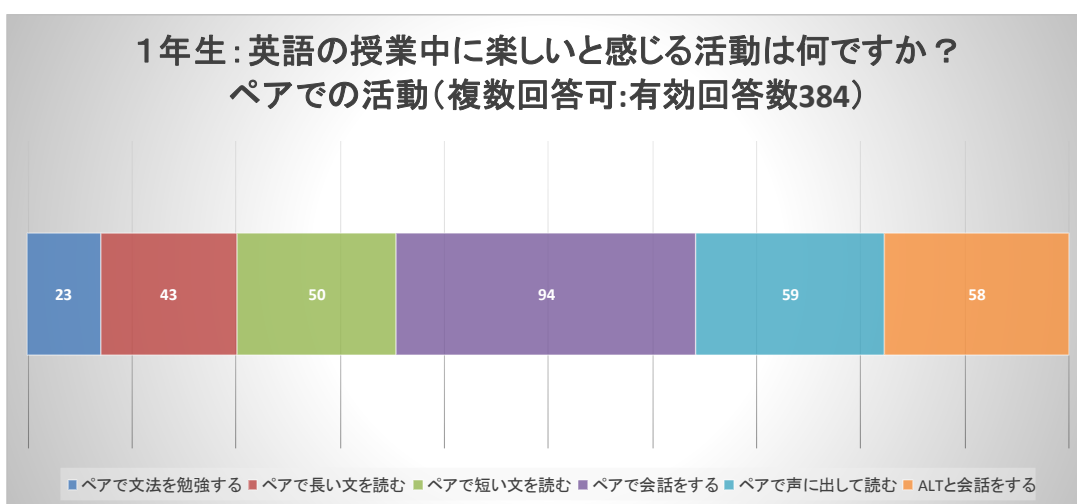


図 4. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：ペアの場合

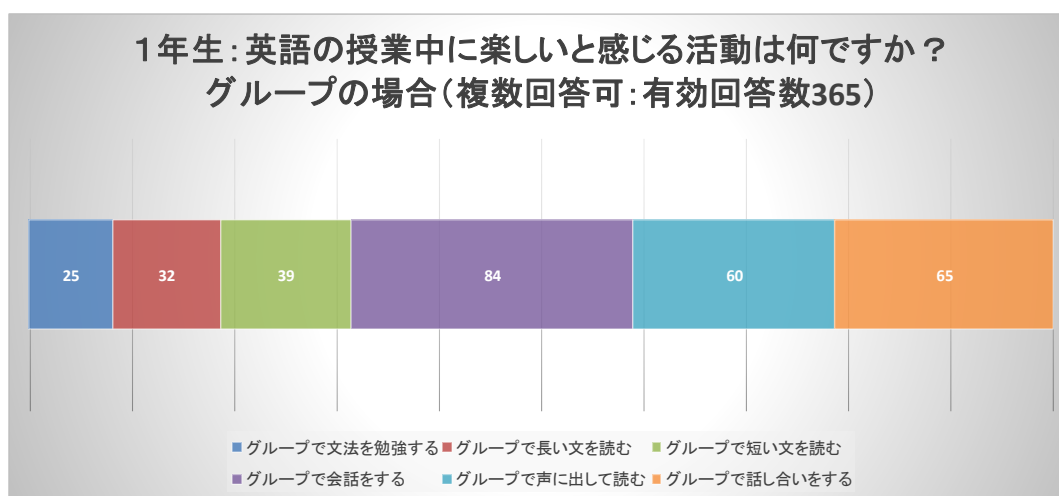


図 5. 英語の授業に楽しいと感じる活動：グループの場合



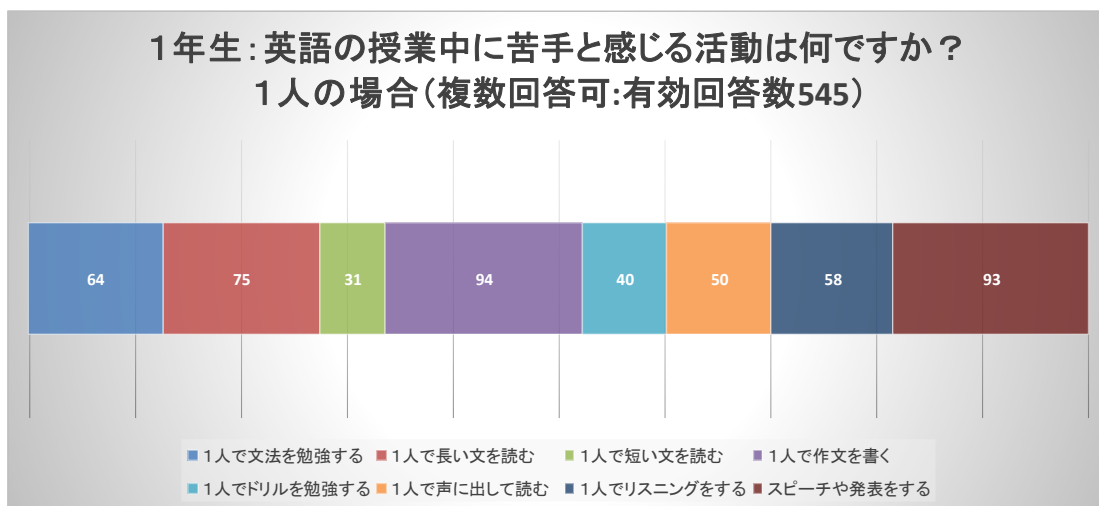


図 6. 英語の授業中に苦手と感じる活動：1人の場合

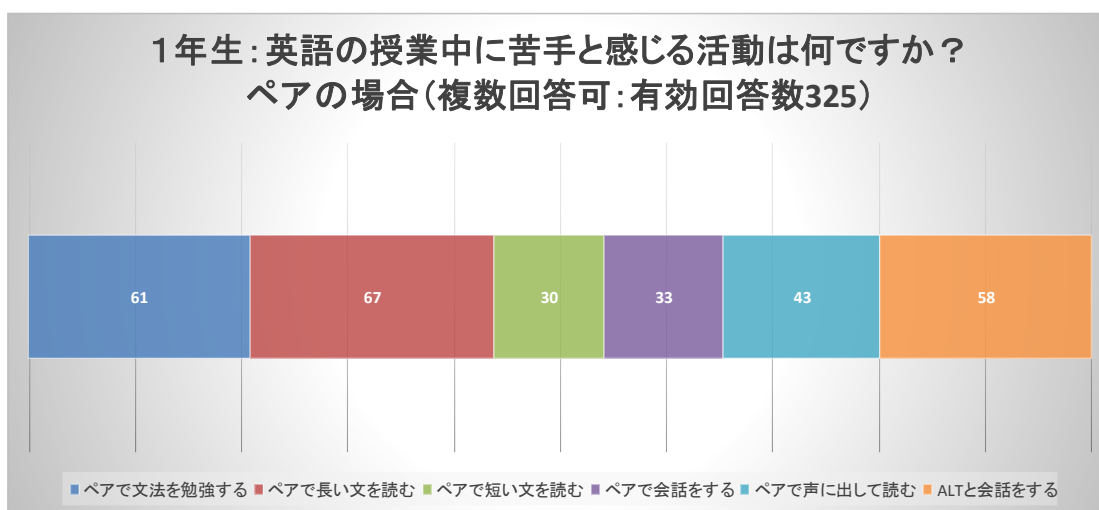


図 7. 英語の授業中に苦手と感じる活動：ペアの場合

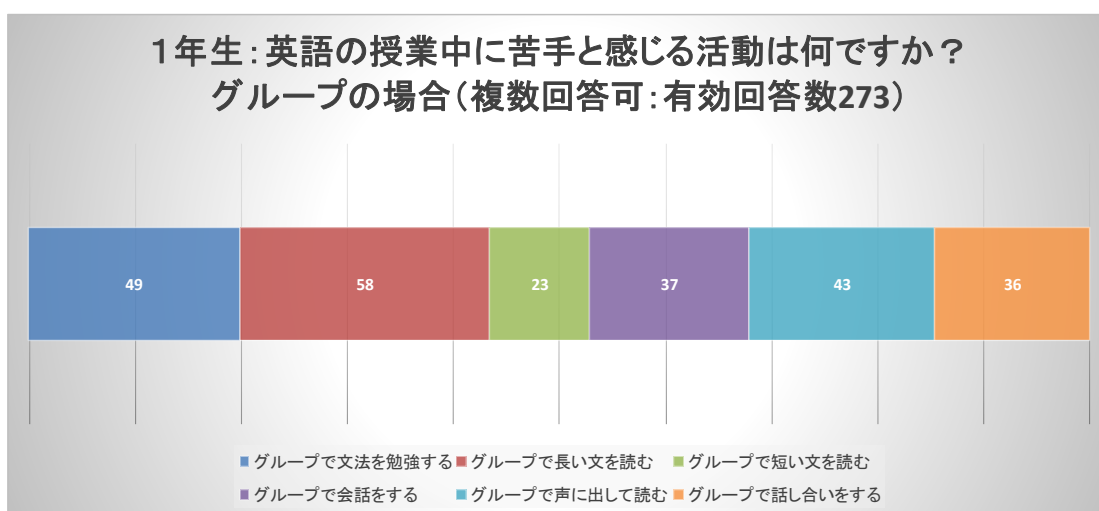


図 8. 英語の授業中に苦手と感じる活動：グループの場合



### 5.2.2 分析方法：つまずきの意識に関して

次に、つまずきに関する傾向とその理由を探っていく。質問は「あなたが苦手だと感じることについて、あてはまるものを番号で選び、その理由を書いてください。理由がわからなければ番号だけを選んでください。質問にでてくる「単語」や「英文」は、既に学校で習ったことがあるものとして答えてください（問 38）」であり、あてはまるものとその理由について生徒たちが記述を行った（図 9・表 5～表 7 参照）。表 5～表 7 の自由記述項目については、KJ 法の一部を使用し（川喜田, 1986）の一部を使用し、以下の手順で自由記述の分析を進めた。1) 生徒の自由記述をラベル化し、2) 似ているラベル同士をグループ化し、3) 生徒の記述回数と有効回答回数を定量化する。

### 5.2.3 分析結果：つまずきの意識に関して

図 9 が示すように「英語で苦手だと感じることについて（つまずきの意識：有効回答数 472）」で最も多かった回答は「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く（回答数・80）」であり、次いで「単語を書く（回答数・69）」「英語で文章（単文）を書く（回答数・66）」「英語で書かれた文章（ある程度まとまりのある文章）を読む（回答数・50）」であった。単語・文章（単文）・文書を書くという「書く」活動に対して苦手意識が多く見られた。

次に苦手だと感じる意識に関する理由をラベル化したところ（表 5～表 7）、「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」に対しては、有効回答数 36 の記述があり、その中で最も多く見られた記述は「文法に対するつまずき（記述回数・14）」であった。次に「単語を書く」ことに対しては「覚えることに対するつまずき（記述回数・12）」や「スペルに関するつまずき（記述回数・10）」であった。

「英語で文章を（単文）を書く」ことについては「スペルに関するつまずき（記述回数・8）」「理解できないことに対するつまずき（記述回数・7）」であった。

総括すると、自由記述をラベル化した結果として「覚えることに対するつまずき」「スペルに関するつまずき」「理解することに対するつまずき」「単語の発音（読み）に関するつまずき」「文法に関するつまずき」が多く見られた。

1年生：英語で苦手だと感じることについて(つまづきの意識：有効回答数472)

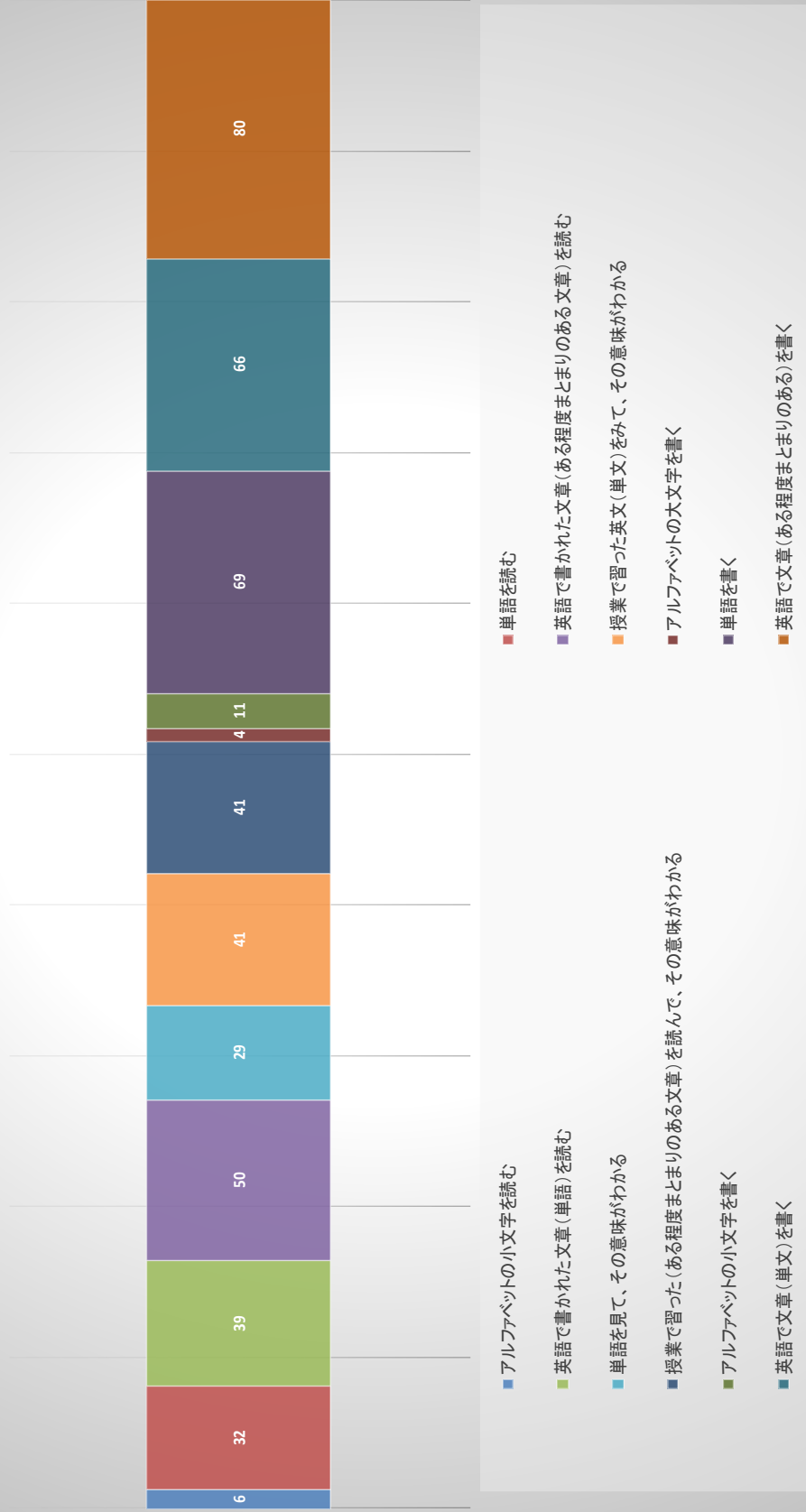


図9. 英語で苦手と感じることについて：つまづきに関する意識



表 5. つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回数	有効回答数
アルファベットの大文字を読む	N/A	N/A	N/A	N/A
アルファベットの小文字を読む	単語の発音(読み)に関するつまづき	発音がよくわからない。読み方がわからない。	1	2
	大文字・小文字の識別に関するつまづき	大文字はよく見かけるけど、小文字は見ないから	1	
単語を読む	単語を覚えることに対するつまづき	覚えるのがすごく大変	3	16
	単語の発音(読み)に関するつまづき	発音を覚えるのがきつい	11	
	スペルに関するつまづき	つづりがわからなくなる	2	
英語で書かれた文章(単語)を読む	単語の発音(読み)に関するつまづき	読み方などが分からない	5	20
	覚えることに対するつまづき	覚えられない	3	
	スペルに関するつまづき	スペルが読めない	1	
	理解できないことに対するつまづき	何が何かわからなくなる	8	
	意味が理解できないことに対するつまづき	単語はわかっても意味が理解できない。	1	
	間違えに対する不安感	間違えると恥ずかしい	1	
	母音に関するつまづき	aをオと読んだり、母音とかが変わっているから	1	
英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む	単語の発音(読み)に関するつまづき	発音が難しいから	11	26
	覚えることに対するつまづき	覚えるのが苦手	4	
	スペルに関するつまづき	スペルが読めない	2	
	理解できないことに対するつまづき	わかりづらい	5	
	文章の構造に関するつまづき	文章のまとまりが分からない	2	
	単語の意味に関するつまづき	単語の意味が分からない	2	
単語を見て、その意味がわかる	単語の発音(読み)に関するつまづき	書けるけど、読み方がわからない	3	11
	覚えることに対するつまづき	覚えるのが大変だから	1	
	スペルに関するつまづき	組み合わせが難しい	1	
	理解できないことに対するつまづき	わからないときがある	1	
	単語の意味に関するつまづき	書けるけど意味がわからない	2	
	単語への難しさに対するつまづき	難しい言葉がときどきある	1	
	意味を忘れてしまうことに対するつまづき	あまり使わない単語は意味をわすれてしまう	1	
	英語とローマ字の理解に関するつまづき	ローマ字しか分かりにくい。	1	



表 6. つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回数	有効回答数
授業で習った英文(単文)をみて、その意味がわかる	難しい英文に関するつまづき	難しい英文もあるから	2	21
	英文の発音(読み)に関するつまづき	英文が読めない	4	
	英文の意味に関するつまづき	読めても意味が分からない	5	
	文法に関するつまづき	コンマなどの位置が分からなくなる	1	
	理解できないことに対するつまづき	わかることもあるけど、できないほうが多い	5	
	覚えることに対するつまづき	忘れてしまう	4	
授業で習った(ある程度まとまりのある文章)を読んで、その意味がわかる	難しい英文に関するつまづき	難しい英文もあるから	2	15
	覚えることに対するつまづき	覚えるのが苦手	4	
	英文読解に関するつまづき	英文が読めない	1	
	単語の意味に関するつまづき	単語の意味もわからないから	1	
	理解できないことに対するつまづき	分からないから	2	
	英文の発音(読み)に関するつまづき	発音がわからないから	2	
	英文の意味に関するつまづき	色々な文で意味がごちゃごちゃになってしまうから	2	
	リスニングに関するつまづき	読み取りがきらい	1	
アルファベットの大文字を書く	大文字・小文字に関するつまづき	できる。でも小文字と間違える	1	1
アルファベットの小文字を書く	覚えることに対するつまづき	覚えるのが大変	2	5
	小文字に関するつまづき(理解)	小文字がよく分からないから	1	
	小文字に関するつまづき(b/dの区別)	b、dの区別がつかない	1	
	小文字に関するつまづき(l/rの区別)	l、rなど区別しにくい	1	
単語を書く	覚えることに対するつまづき	単語を覚えるのが大変	12	35
	スペルに関するつまづき	つづりをわすれてしまったりする	10	
	スペルに関するつまづき(難易度に関して)	簡単な単語は書けるけど、難しい単語は書けない	1	
	スペルに関するつまづき(b/dの区別に関して)	「b」と「d」がごちゃごちゃになるから	1	
	スペルに関するつまづき(a/eに関して)	aとeをまちがえる	1	
	スペルに関するつまづき(英語とローマ字の区別に関して)	ローマ字と違うところ	2	
	スペルに関するつまづき(長い単語に関して)	長いのが苦手	1	
	理解できないことに対するつまづき	ややこしくなって難しくなる。	4	
	単語の意味に関するつまづき	ずっと書いているとほかの単語とわかりにくくなる	2	
	単語の発音(読み)に関するつまづき	読めないから書けない	1	



表 7. つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回数	有効回答数
英語で文章(単文)を書く	単語の意味に関するつまづき	わからない英語もあるから	2	35
	覚えることに対するつまづき	覚えるのが苦手	4	
	書くことへのつまづき	書けない	4	
	文法に関するつまづき	英語で組み合わせるのが難しい	6	
	スペルに関するつまづき (b/dの区別に関して)	「b」と「d」がごちゃごちゃになるから	1	
	スペルに関するつまづき	スペルを覚えられない	8	
	理解できないことに対するつまづき	むずかしい	7	
	動詞に関するつまづき	動詞がわからない	1	
	冠詞に関するつまづき	a.anがわからない	1	
	苦手意識からのつまづき	いっぱい連なっている文が苦手だから	1	
英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く	単語の意味に関するつまづき	わからない英語もあるから	1	36
	スペルに関するつまづき	スペルを覚えられない	5	
	スペルに関するつまづき (b/dの区別に関して)	「b」と「d」がごちゃごちゃになるから	1	
	覚えることに対するつまづき	覚えるのが苦手	2	
	文法に関するつまづき	文法がわからない	14	
	書くことへのつまづき	書けない	6	
	冠詞に関するつまづき	日本語の文法もわからんのに、英語になったらa・anとかついたりしてチンプンカンプンになるから	1	
	理解できないことに対するつまづき	わからないから	6	



## 6. 調査対象者

### 6.1 調査対象者：中学2年生

本節での分析対象者は、前述の公立中学校1年生と同様の中学校における中学2年生である（表8参照）。

表8. 調査対象者に関する内訳

公立中学校2年生	
A 中学校	35名
B 中学校	26名
C 中学校	35名
D 中学校	33名
E 中学校	29名
F 中学校	31名
合計	189名

## 7. 研究結果

### 7.1 研究結果1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して

中学2年生に対して実施した質問紙調査結果を示す。信頼性係数、記述統計（平均・標準偏差）、性差比較は以下の通りである（表9・表10参照）。信頼性係数については十分な係数が確保できていると言える。

表9. 信頼性係数

変数	信頼性係数
自律性	$\alpha$ . 75
有能性	$\alpha$ . 82
関係性	$\alpha$ . 82
内発的動機付け	$\alpha$ . 92
言語・文化への関心	$\alpha$ . 70
CanDo読む	$\alpha$ . 87
CanDo書く	$\alpha$ . 83
L2WTC	$\alpha$ . 86
L2理想自己	$\alpha$ . 78



表 10. 記述統計（平均値・標準偏差）

	平均値	標準偏差
自律性	2.87	.94
有能性	3.23	.95
関係性	3.72	.84
内発的動機付け	3.30	1.26
言語文化への関心	3.42	1.00
CanDo読む	3.51	.96
CanDo書く	3.61	.98
L2WTC	3.04	1.13
L2理想自己	3.22	1.12

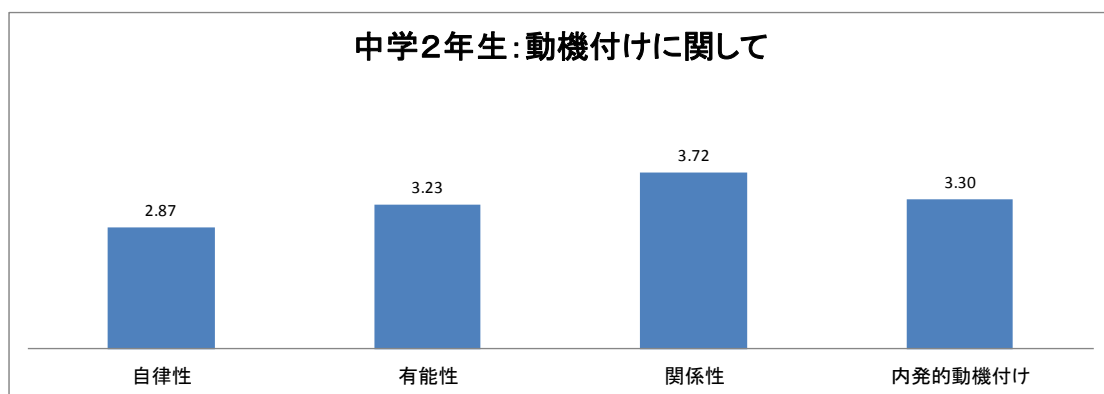


図 10. 中学 2 年生の動機付けに関する全体傾向

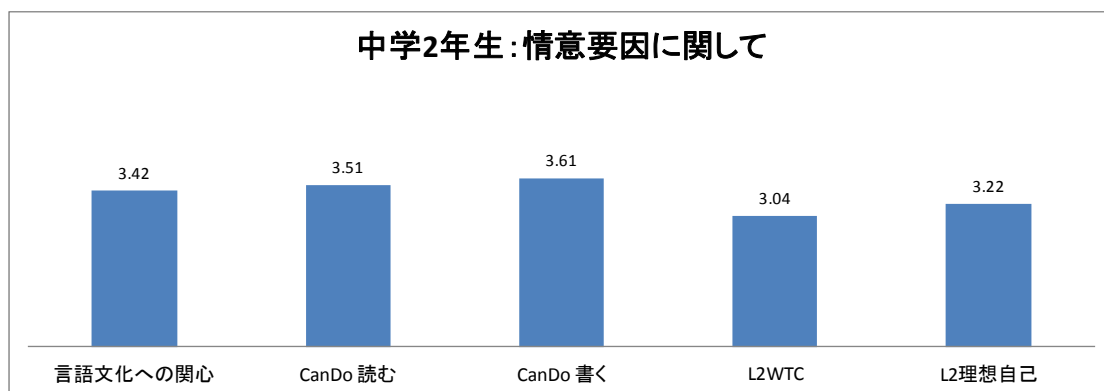


図 11. 中学 2 年生の情意に関する全体傾向

平均値を比較した結果から（図 10・図 11 参照）、関係性が高く、「CanDo 書く」が高い傾向にあり、自律性やコミュニケーションへの積極性が低い傾向にある事が明らかになった。この結果は中学 1 年生と同一の傾向を示している。





表 11. 中学校 2 年生の性差比較に関する記述統計

	性別	人数	平均値	標準偏差
自律性	男子	95	2.60	0.90
	女子	92	3.13	0.89
有能性	男子	95	2.92	0.96
	女子	92	3.52	0.81
関係性	男子	95	3.63	0.91
	女子	92	3.80	0.75
内発的動機付け	男子	95	2.94	1.26
	女子	92	3.66	1.16
言語・文化への関心	男子	95	3.13	0.99
	女子	92	3.70	0.93
CanDo読む	男子	95	3.24	1.04
	女子	92	3.77	0.78
CanDo書く	男子	95	3.31	1.03
	女子	92	3.93	0.82
L2WTC	男子	95	2.79	1.19
	女子	92	3.26	1.00
L2理想自己	男子	95	2.90	1.13
	女子	92	3.55	1.03

性差比較を行ったところ（表 11 参照）、女子生徒の方が男子生徒と比較して、全体的に高い数値を占めている。特に、有能性・内発的動機付け・言語文化への関心・CanDo 読む・L2 理想自己については、女子生徒の方が高い数値を示している。

## 7.2 調査結果 2：自由記述項目（つまずき）に関して

### 7.2.1 好む・苦手な活動に関する結果

中学 2 年生段階での好む活動・苦手な活動を探り「つまずき」に関わる要因を以下の図 12～図 17 に示す。英語の授業で楽しいと感じる活動（1 人の場合）は「1 人で単語を学ぶ（回答数・89）」「1 人で短い文を読む（回答数・55）」であり、ペアの場合では、「ペアで会話をする（回答数・79）」「ペアで声に出して読む（回答数・58）」であり、グループでの場合は「グループで話し合いをする（回答数・81）」「グループで会話をする（回答数・65）」であった。

苦手な活動については、1 人の場合は「1 人で長い文を読む（回答数・154）」「1 人で単語を学ぶ（回答数・121）」であり、ペアの場合では「ペアで長い文を読む（回答数・66）」「ALT と話をする（回答数・60）」であり、グループでの場合は「グループで話し合いをする（回答数・81）」「グループで会話をする（回答数・65）」であった。

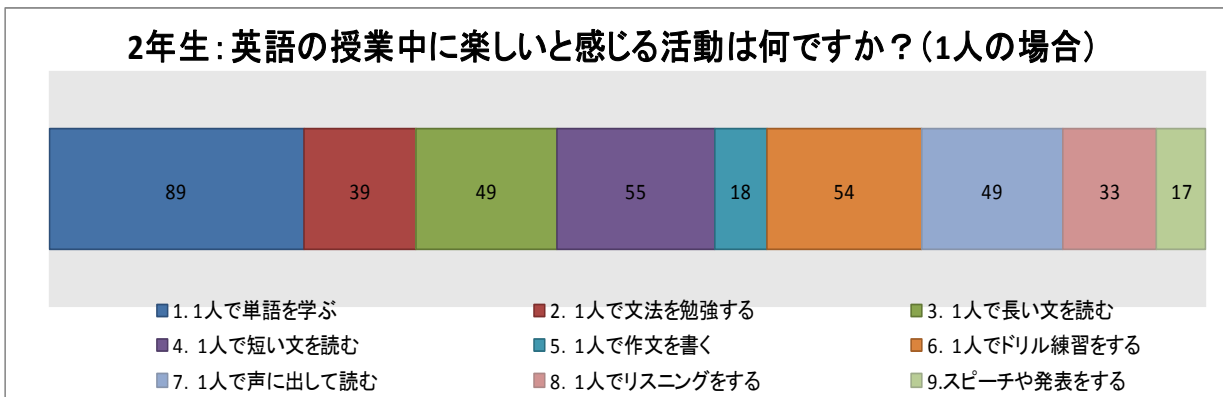


図 12. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：1人の場合

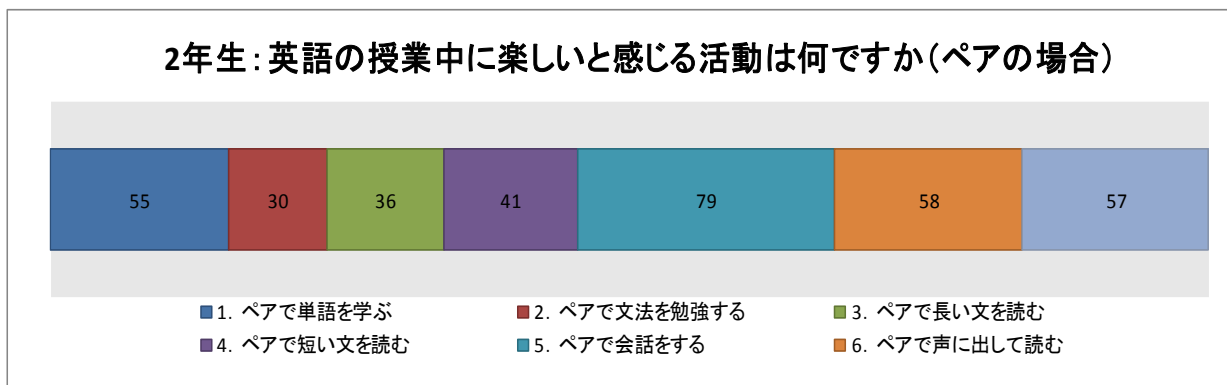


図 13. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：ペアの場合

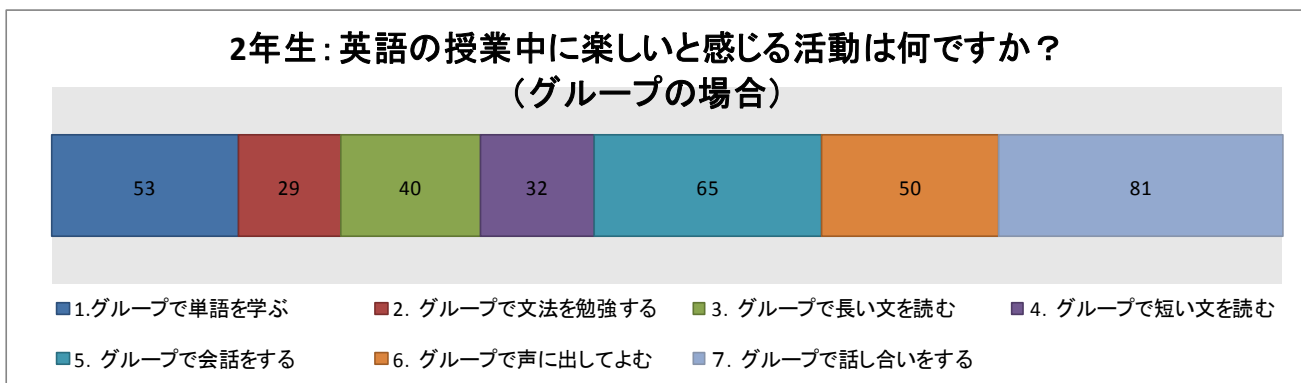


図 14. 英語の授業中に楽しいと感じる場合：グループの場合

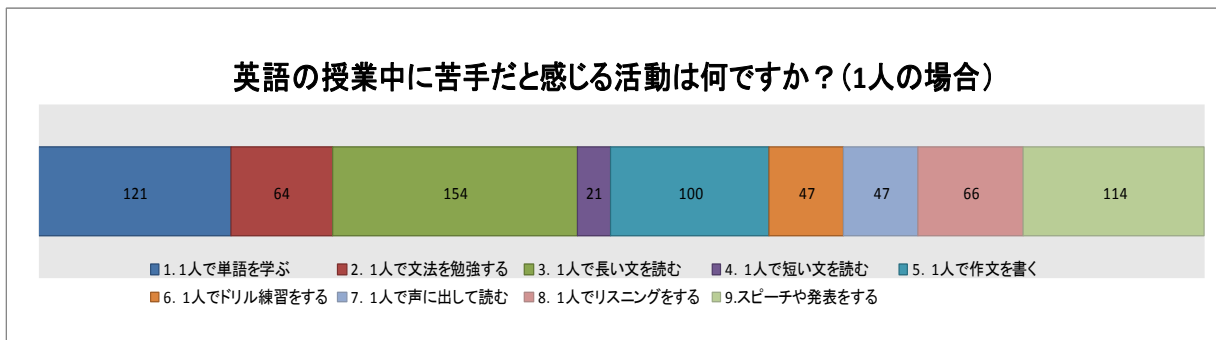


図 15. 英語の授業中に苦手と感じる活動：1 人の場合

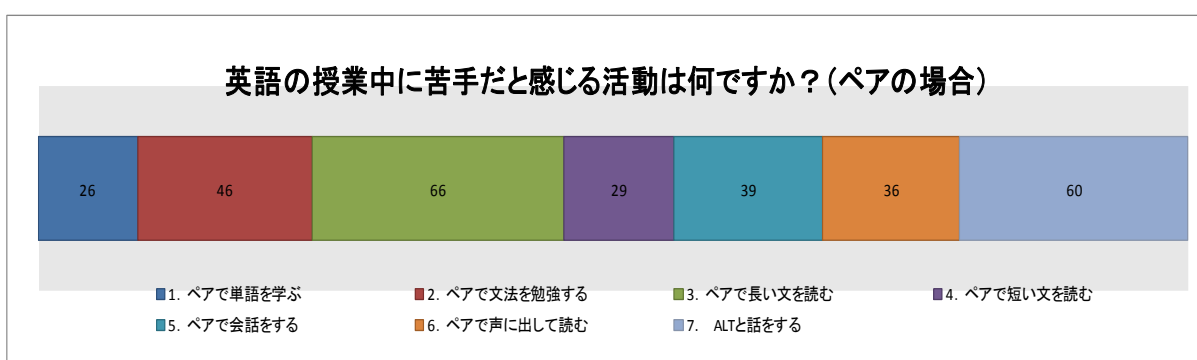


図 16. 英語の授業中に苦手と感じる活動：ペアの場合

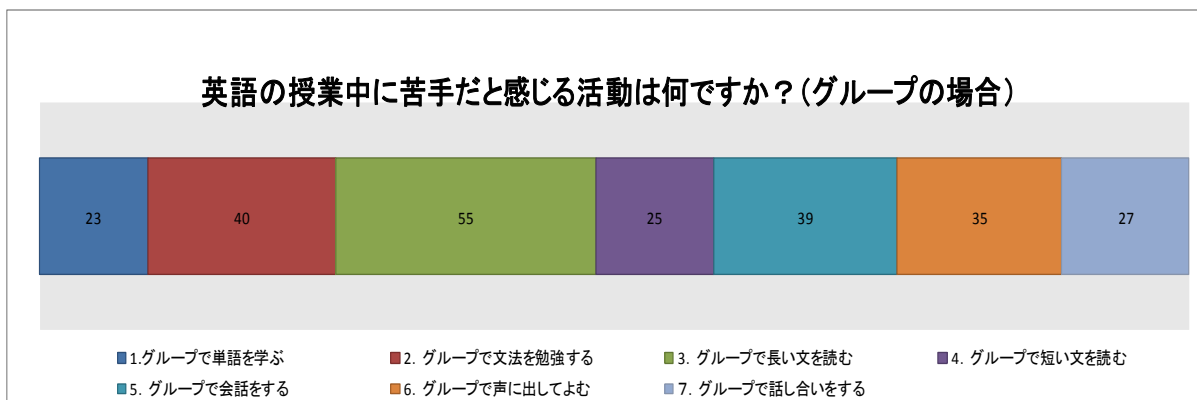


図 17. 英語の授業中に苦手と感じる活動；グループの場合

## 2年生：英語で苦手だと感じることについて(つまずきの意識:有効回答数425)

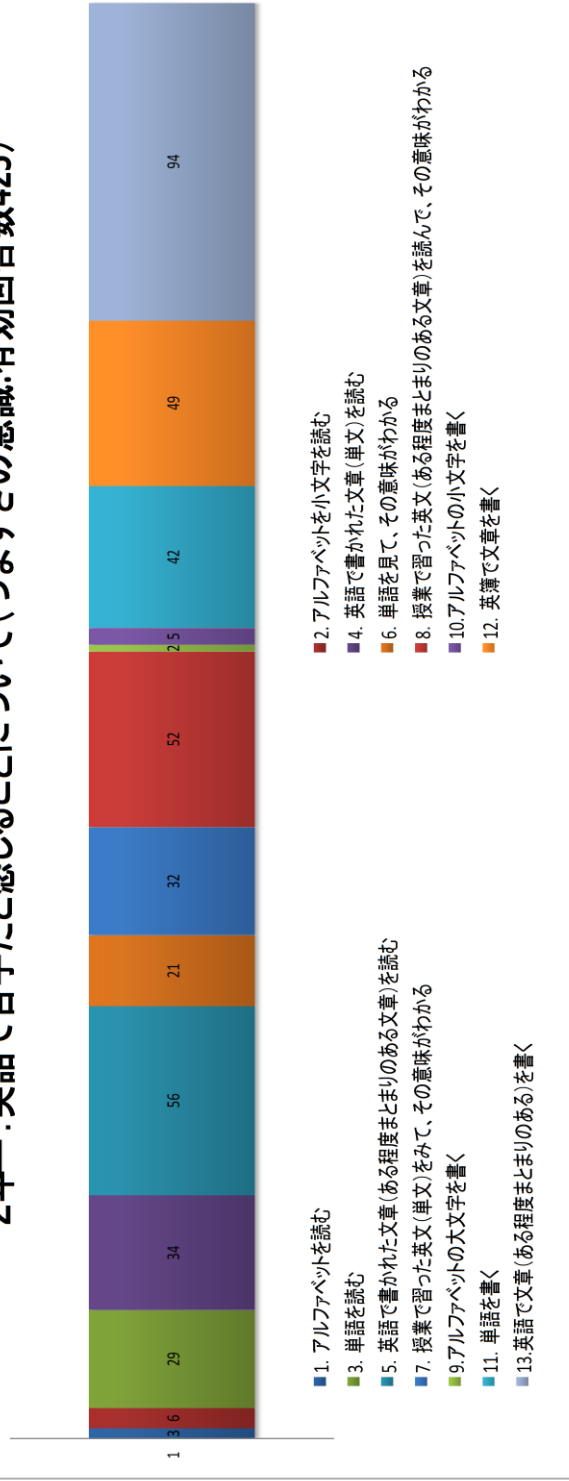


図 18. 中学 2 年生の英語で苦手だと感じることについて



表 12. つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回数	有効回答数
アルファベットの大文字を読む	単語の読みに関するつまづき	読めない	1	1
アルファベットの小文字を読む	理解できないことに対するつまづき	難しい	1	4
	単語の読みに関するつまづき	読み方が分からない	3	
単語を読む	単語の発音に関するつまづき	発音しない文字があるから難しい	2	5
	単語の読みに関するつまづき	読み方が分からない	2	
	単語を覚えることに対するつまづき	単語が分からない	1	
英語で書かれた文章(単文)を読む	単語の読みに関するつまづき	単語が読めないので	7	16
	文法に関するつまづき	文法的にわからないことがある	3	
	単語を覚えることに対するつまづき	単語がわからない	3	
	理解できないことに対するつまづき	難しいから	1	
	文が長いことに対するつまづき	長い文があるから	2	
英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む	単語の読みに関するつまづき	読めない単語があるので	5	19
	単語を覚えることに対するつまづき	単語の意味を完全に覚えてないから	4	
	単語の発音に関するつまづき	単語の発音が分からないとき困る。	2	
	文が長いことに対するつまづき	長文が嫌だから	3	
	理解できないことに対するつまづき	よくわからない	4	
	文法に関するつまづき:前置詞	前置詞が分からない	1	
単語を見て、その意味がわかる	単語を覚えることに対するつまづき	覚えられない	6	8
	理解できないことに対するつまづき	難しい	1	
	単語の読みに関するつまづき	読めない	1	
授業で習った英文(単文)を見て、その意味がわかる	単語を覚えることに対するつまづき	少しはわかりますが単語の意味がわからないので苦手	4	6
	文が長いことに対するつまづき	文が長いとちょっと分からない	1	
	単語の読みに関するつまづき	読めない	1	

### 7.2.2. 分析結果：つまづきの意識に関して

「英語で苦手だと感じることについて (つまづきの意識) (有効回答数：425)」(図 18) で最も多かった回答は「英語で文章 (ある程度まとまりのある) を書く (回答数・94)」であり、次いで「英語で書かれた文章を読む (回答数・56)」「授業で習った英文 (ある程度まとまりのある文章) を読んで、その意味がわかる (回答数・52)」に対して多くの苦手意識が見られた。

つまづきの意識に関する理由をラベル化したところ (分析方法は、5.2.2 を参照) (表 12・表 13)、英語の「読み」に関しては「英語で書かれた文章 (ある程度のまとまりのある文章) を読む」(記述回数・19) に対して多くの記述が見られた。特に「単語の読みに関するつまづき (記述回数・5)」に対して記述が多くあり“読めない単語があるために”読むことに対するつまづきが多いことが明らかになった。更に単語に関しては「単語を覚えることに対するつまづき (記述回数・4)」が多くみられ、“単語がわからない”“頭に入りにくい”等の記述が多く見られた。文章に対して「理解できないことに対するつまづき」が見られ、英語を「読む」ことや「単語」に対するつまづきが見られ、“難しい”“よくわからない”等の記述が見られた。



表 13 つまづきの意識に関する理由

授業で習った英文(ある程度まとまりのある文章)を読んで、その意味がわかる	単語を覚えることに対するつまづき	頭に入りにくい	4	12
	日本語訳に関するつまづき	英文を日本語訳するのが苦手。	3	
	文が長いことに対するつまづき	長文が嫌いだから	3	
	理解できないことに対するつまづき	量が多いので難しい。	1	
	文法に関するつまづき	接続詞が入ると読みにくい。	1	
アルファベットの大文字を書く	単語の読みに関するつまづき	読めない	1	1
アルファベットの小文字を書く	小文字に関するつまづき(b/dの区別)	bとdが分からないから	2	3
	大文字・小文字の識別に関するつまづき	大文字と混ざる	1	
単語を書く	スペルに関するつまづき	書けない	4	25
	単語を覚えることに対するつまづき	難しい単語もあるから	18	
	理解できないことに対するつまづき	長いのは理解できるが、書けない	1	
	単語を覚えることに対するつまづき:意味	意味がよくわからないから	1	
	単語が長いことに対するつまづき	長い単語が難しい。	1	
英語で文章(単文)を書く	文法に関するつまづき	文法	6	15
	スペルに関するつまづき	単語がほとんど書けない	3	
	理解できないことに対するつまづき	良く分からない	5	
	英語に関する苦手意識からのつまづき	文章を書くのが苦手だから。	1	
英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く	文法に関するつまづき	文法	23	46
	スペルに関するつまづき	語順	9	
	単語を覚えることに対するつまづき	教科書などを見ながらだと書けるが意味は分からない	4	
	日本語訳に関するつまづき	日本語からどう訳せばいいかわからないときがある。	1	
	書くことに対する苦手意識に関わるつまづき	書くのが苦手	1	
	文が長いことに対するつまづき	長文が嫌いだから	3	
	理解できないことに対するつまづき	難しい。良く分からない。	4	
	書く内容に関するつまづき	自分の気持ちを表現するのが難しい	1	

英語を「書く」ことに関する記述においては「英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く」(記述回数・46)「単語を書く」(記述回数・25)について多くの回答が寄せられて。「単語を覚えることに対するつまづき」は“難しい単語もあるから”という記述や、「英語で文章(単文)を書く」は“文法に対するつまづき”に対して多くの記述が寄せられた。

結果として「単語の読みに関するつまづき」「単語を覚えることに対するつまづき」が多く「文法に関するつまづき」に多くの記述がみられている。「単語を読む」「覚える」ことに対してのつまづきが多いことから、単語に関しては「読み」「覚える」ことのできる教育的介入を実施し、文法に関してはつまづきが「書く」ことに対して多いことから「書く」活動を行う際に、文法を補完していく活動の導入が必要となろう。



## 8. 調査対象者

### 8.1 調査対象者：中学3年生

本節の分析対象者は、前述の公立中学校1年生・2年生と同様の中学校3年生である（表14参照）。

表14. 調査対象者に関する内訳

公立中学校3年生	
A 中学校	37名
B 中学校	34名
C 中学校	36名
D 中学校	28名
E 中学校	29名
F 中学校	35名
合計	199名

## 9. 研究結果

### 9.1 研究結果1：質問紙項目（動機付け・情意）に関して

中学3年生に対して実施した質問紙調査結果を示す。信頼性係数、記述統計（平均・標準偏差）、性差比較は以下の通りである（表15・表16参照）。

表15. 信頼性係数

変数	信頼性係数
自律性	$\alpha.68$
有能性	$\alpha.81$
関係性	$\alpha.79$
内発的動機付け	$\alpha.92$
言語・文化への関心	$\alpha.66$
CanDo読む	$\alpha.88$
CanDo書く	$\alpha.91$
L2WTC	$\alpha.87$
L2理想自己	$\alpha.79$



表 16. 記述統計（平均値・標準偏差）

	平均値	標準偏差
自律性	2.87	.81
有能性	3.13	.82
関係性	3.85	.73
内発的動機付け	3.24	1.18
言語文化への関心	3.34	.96
CanDo読む	3.25	.88
CanDo書く	3.49	.90
L2WTC	3.03	.99
L2理想自己	3.22	1.02

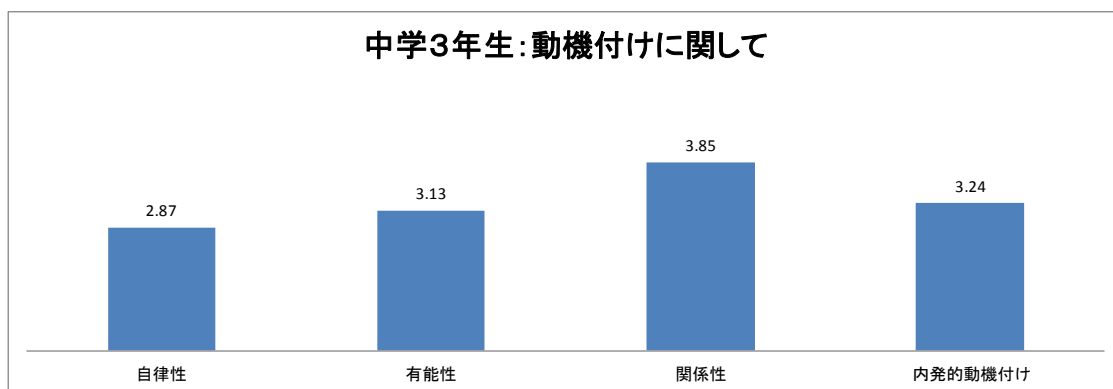


図 14. 中学3年生の動機付けに関する全体傾向

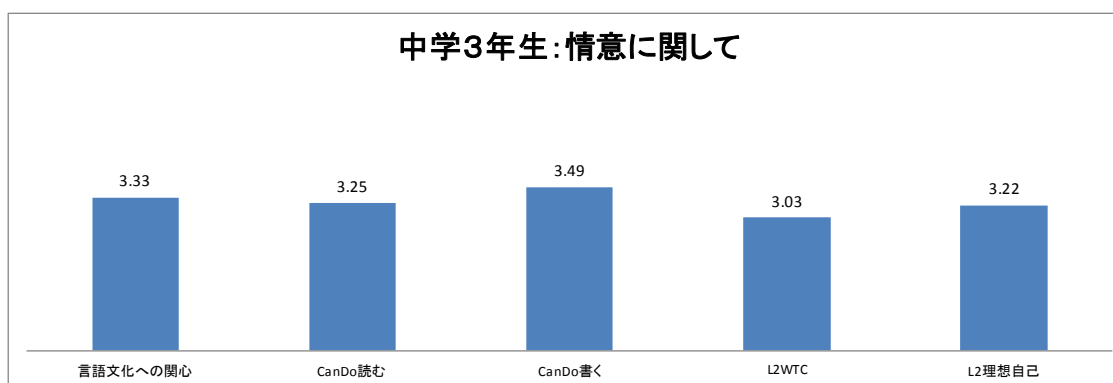


図 15. 中学3年生の情意に関する全体傾向

平均値を比較したところ「関係性」「CanDo書く」が高い傾向にあり、自律性やL2WTCが低い傾向にある。この傾向は中学1年生・2年生の結果に等しい（図14・図15参照）。





表 17. 中学 3 年生の性差比較に関する記述統計

	性別	人数	平均値	標準偏差
自律性	男子	99	2.71	0.84
	女子	100	3.02	0.74
有能性	男子	99	2.95	0.86
	女子	100	3.30	0.74
関係性	男子	99	3.83	0.76
	女子	100	3.88	0.71
内発的動機付け	男子	99	3.11	1.17
	女子	100	3.36	1.18
言語・文化への関心	男子	99	3.14	0.96
	女子	100	3.54	0.92
CanDo読む	男子	99	3.21	0.91
	女子	100	3.30	0.85
CanDo書く	男子	99	3.42	0.97
	女子	100	3.56	0.83
L2WTC	男子	99	3.12	1.02
	女子	100	2.94	0.96
L2理想自己	男子	99	3.22	1.02
	女子	100	3.21	1.02

性差の比較を行ったところ、全体的に女子生徒の方が男子生徒と比較して動機付けやその他の情意要因に関して高い傾向を示している（表 17 参照）。

## 9.2 分析結果：自由記述に関して（つまずきの意識）

### 9.2.1 好む・苦手な活動に関する結果

中学 3 年生段階の好む活動・苦手な活動を探り「つまずき」に関わる要因を以下の図 16～図 18 に示す。英語の授業で楽しいと感じる活動は、1 人の場合は「1 人で単語を学ぶ」（回答数・67）「1 人でリスニングをする」（回答数・61）であり、ペアの場合では「ALT と話をする」（回答数・81）「ペアで会話をする」（回答数・77）であり、グループの場合では「グループで話し合いをする」（回答数・78）「グループで会話をする」（回答数・94）であった。

次に、英語で苦手だと感じる意識に関する理由を探ったところ（図 19～図 21）、1 人の場合では「1 人で作文を書く」（回答数・128）「スピーチや発表をする」（回答数・118）であり、ペアの場合では「ペアで長い文を読む」（回答数・62）「ALT と話をする」（回答数・65）であり、グループでの場合は「グループで長井分を読む」（回答数・67）「グループで会話をする」（回答数・51）であった。

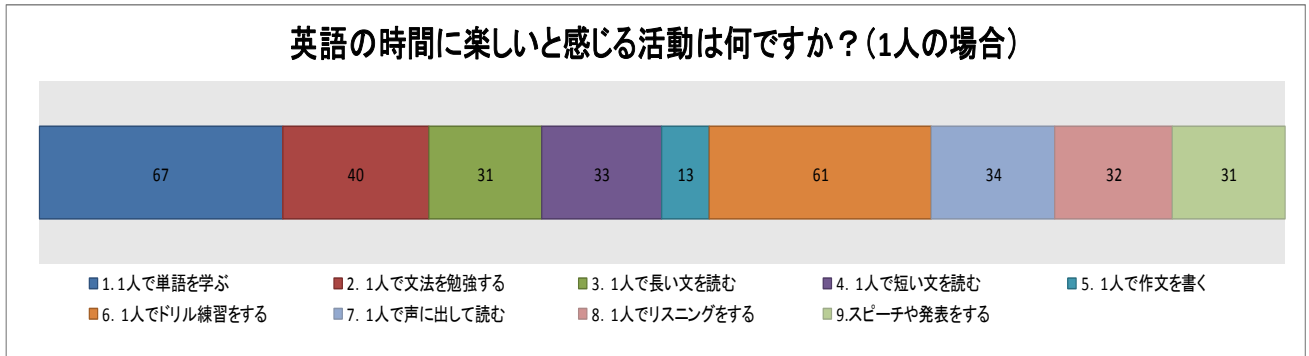


図 16. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：1 人の場合

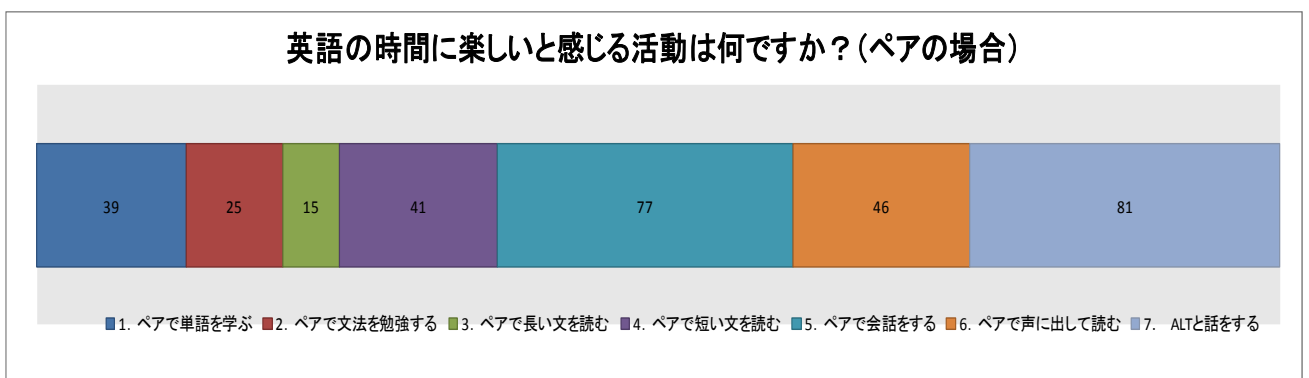


図 17. 英語で授業中に楽しいと感じる活動：ペアの場合

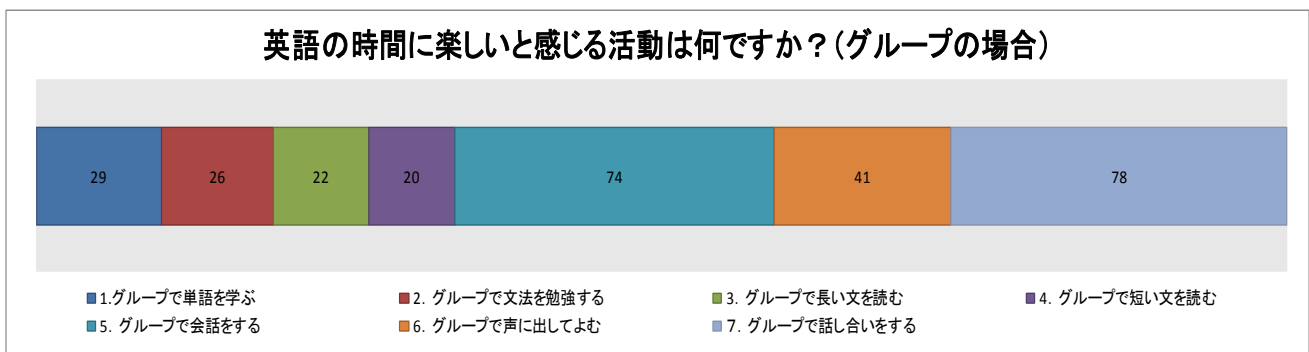


図 18. 英語で授業中に楽しいと思う活動：グループの場合

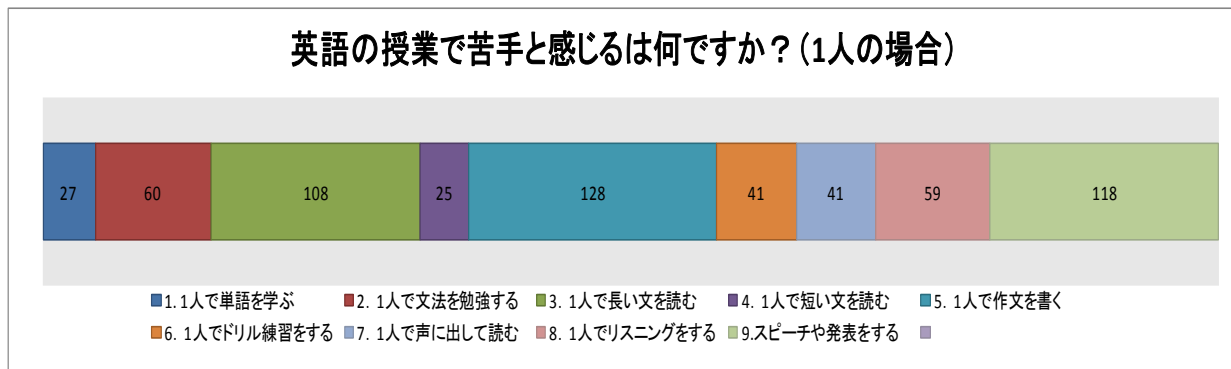


図 19. 英語の授業中に苦手と感じる活動：1人の場合

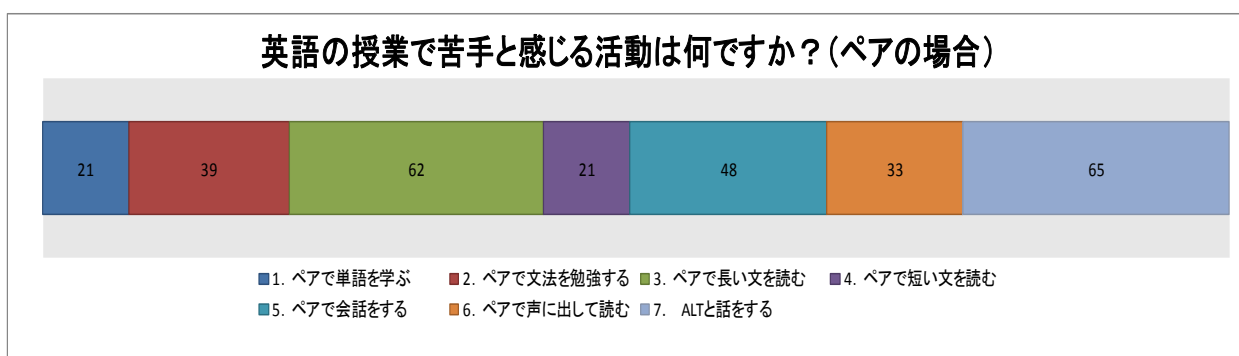


図 20. 英語の授業中に苦手と感じる活動：ペアの場合

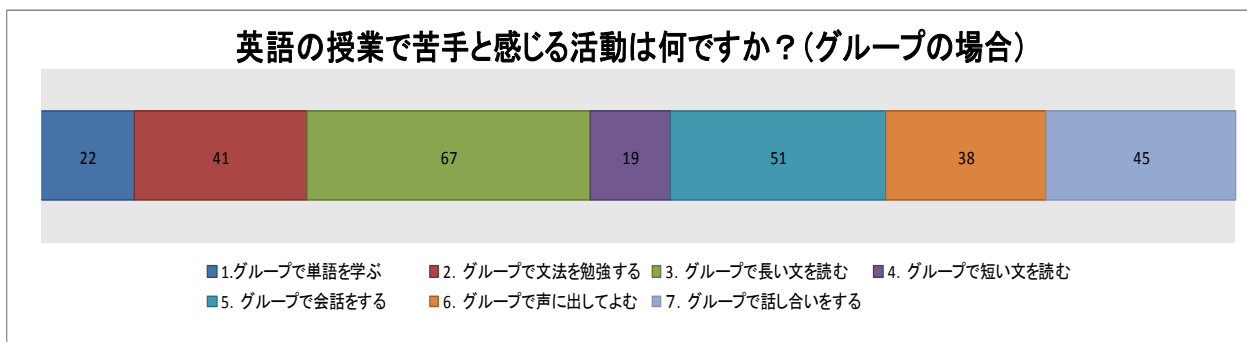


図 21. 英語の授業中に苦手と感じる活動：グループの場合

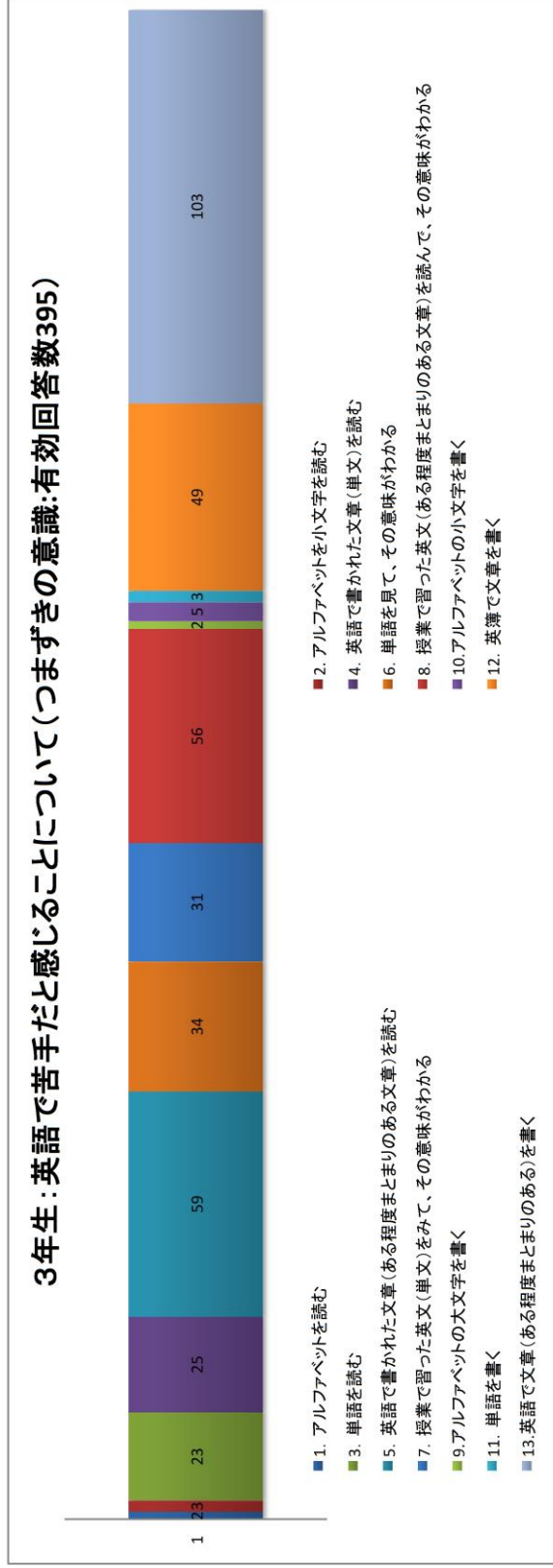


図 22. 中学 3 年生の英語で苦手だと感じることについて





表 18 つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回答数	有効回答数
アルファベットの大文字を読む	単語の発音に関するつまづき (M/Nの発音)	MとNの発音の違い	1	1
アルファベットの小文字を読む	単語の発音に関するつまづき	発音記号がバラバラ	1	1
	単語の発音に関するつまづき (b/dの区別)	bとdが区別しづらい	1	1
単語を読む	単語を覚えることに対するつまづき	覚えられない	5	16
	単語の発音に関するつまづき	読み方がわからないときがある。	6	
	単語の読みに関するつまづき	読み方が分からない	5	
英語で書かれた文章(単文)を読む	単語の読みに関するつまづき	読めない	6	9
	覚える事に対するつまづき	忘れているときがある	1	
	理解できないことに対するつまづき	分からない	1	
	文法に関するつまづき	文法を覚えていない	1	
英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む	単語の読みに関するつまづき	読めない	8	40
	意味が理解できないことに対するつまづき	何を言っているのか理解できないときがある。	13	
	文が長いことに対するつまづき	長文だと内容がわからなくなる	9	
	類似の単語への理解に対するつまづき	似ている単語があるから、わからなくなる。	1	
	単語の発音に関するつまづき	発音がわからない	1	
	理解できないことに対するつまづき	難しい	6	
	文法に関するつまづき:前置詞	前置詞の使い方	1	
	和訳することへのつまづき	全体を見て訳すことができていないから	1	
単語をみて、その意味がわかる:理由	覚える事に対するつまづき	覚えられない	10	17
	理解できないことに対するつまづき	わからないものもあるから	5	
	単語の読みに関するつまづき	英語が読めないから。	2	
授業で習った英文(単文)を見て、その意味がわかる	理解できないことに対するつまづき	最後の締めくりがわからない	1	14
	文が長いことに対するつまづき	長いから	1	
	覚える事に対するつまづき	覚えてない単語などがわからないときがある	10	
	単語の意味がわからないことに対するつまづき	単語の意味がわからない	2	
授業で習った英文(ある程度まとまりのある文章)を読んで、その意味がわかる	覚える事に対するつまづき	忘れている。	3	17
	熟語に関するつまづき	何個かの固まりで1つの意味になっていたりしたら少し難しい	1	
	理解できないことに対するつまづき	たまに分からない	3	
	文法に関するつまづき	様々な文法が出てきてややこしい	1	
	単語の読みに関するつまづき	単語を何と読むかわからない	3	
	文が長いことに対するつまづき	長いとしんどい	6	



表 19 つまづきの意識に関する理由

質問項目	ラベル化	生徒の記述例	記述回答数	有効回答数
アルファベットの大文字を書く理由	大文字・小文字の識別に関するつまづき	時々小文字にする	2	2
アルファベットの小文字を書く理由	小文字に関するつまづき(b/dの区別)	bとdが区別できないから	2	21
	覚える事に対するつまづき	覚えられない単語がある。	8	
	スペルに関するつまづき	順番がわからない	10	
	単語の発音に関するつまづき	発音しないアルファベットがあるから	1	
単語を書く	覚える事に対するつまづき	全部覚えきれない。	9	23
	スペルに関するつまづき	順番がわからない	12	
	小文字に関するつまづき(b/dの区別)	「b」と「d」とか間違える	1	
	単語の発音に関するつまづき	発音しないアルファベットがあるから	1	
英語で文章(単文)を書く	単語の使い方に関するつまづき	どんな単語を使ったらいいかわからないから。	1	16
	文法に関するつまづき	文法がわからない	12	
	スペルに関するつまづき	単語が書けない	3	
英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く	文法に関するつまづき	文法が苦手だから	23	44
	書く内容に関するつまづき	どう表現したらいいかわからないから	1	
	文が長いことに対するつまづき	長いから	5	
	日本語・英語の間に生じるつまづき	文と文のつなげ方や日本語を英語に訳しにくい	2	
	スペルに関するつまづき	単語の並べる順が分からないときがある	11	
	理解できないことに対するつまづき	難しい	1	
	苦手意識からのつまづき	英作文が苦手だから	1	

### 6.2.2. つまづきの意識に関して

中学3年生が「英語で苦手だと感じるということについて(つまづきの意識)(有効回答数・395)」(図22参照)については、数多くあったものは1)「英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く」(回答数・103)、2)「英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む」(回答数・56)であり、3)「授業で習った英文(ある程度まとまりのある文章を読んでその意味がわかる)」(回答数・56)であり、長文になるほどに、苦手意識をもつ傾向にあることが明らかになった。

つまづきの意識に関する理由をラベル化したところ、英語の「読み」に関する記述に関しては、「英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む(記述回数・40)」が最も多く、その中でも特に「意味が理解できないことに対するつまづき(記述回数・13)」や「文が長いことに対するつまづき(回答数・9)」であった。

英語を「書く」ことに対するつまづきでは「英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く(記述回数・44)」であり、その中でも特に「文法に関するつまづき(記述回数・23)」や「スペルに関するつまづき(記述回数・11)」が見られた。



## 10. 全体考察

本調査では、公立中学校 6 校の中学 1 年生～3 年生を対象として、英語学習動機やその他の情意要因（言語文化への関心、CanDo 読む・書く、コミュニケーションへの積極性、L2 理想自己）についての質問紙と「つまずきの意識」についての自由記述を行った。今回の調査においては、主に中学生の動機付けや情意要因の実態を探り、好きな活動・苦手な活動を明らかに、更に、「つまずき」に関する意識調査と「つまずき」の理由について調査を行っている。

結果として、動機付けや情意面においては、中学 1 年生～3 年生の全体傾向としては、関係性が高く、自律性が低いという結果であった。関係性の数値が高いということは、調査実施校に関しては「関係性」（教師・生徒、生徒・生徒）が良好な中で、英語授業が行われていると示唆することができる。しかしながら「自律性」（自ら自発的に英語の勉強を行っているという認知）は低いことが明らかになった。「自律性」が低い傾向にあるために、「自分で進んで」英語学習をしているという気持ちを高めていける教育的介入が必要となろう。その他の情意面については、質問紙調査においては「Can-Do 読む」や「Can-Do 書く」が高い傾向にあることが明らかになった。しかし自由記述を通して、「読む」「書く」ことに対するつまずきが明らかになっている。更に、L2WTC（英語でのコミュニケーションへの積極性）が他要因よりも低いことから、今後は、コミュニケーションをより積極的に行っていけるようなクラスでの活動が必要となろう。

本調査では、英語の授業で楽しいと感じる活動と苦手と感じる活動について、1 人の場合・ペアの場合・グループの場合での傾向を捉えている。楽しいと感じる活動については、中学 1 年生では、1 人の場合は「1 人でリスニングをする」であり、ペアの場合は「ペアで会話をする」、グループの場合は「グループで会話をする」であった。中学 2 年生では、1 人の場合は「1 人で単語を学ぶ」であり、ペアの場合は「ペアで会話をする」、グループの場合は「グループで話し合いをする」であった。3 年生では、1 人の場合は「1 人で単語を学ぶ」であり、ペアの場合は「ALT と話をする」、グループの場合は「グループで話し合いをする」であった。ペアやグループでの活動においては、教室内においては、他生徒と一緒に活動ができ、発話をする機会が多くあることが好まれよう。その一方で、授業での苦手な活動については、中学 1 年生では、1 人の場合は「スピーチや発表をする」であり、ペアの場合は「ペアで長い文を読む」、グループでは「グループで長い文を読む」であった。中学 2 年生では、1 人の場合は「1 人で長い文を読む」であり、ペアの場合は「ペアで長い文を読む」、グループの場合は「グループで長い文を読む」であった。中学 3 年生では、1 人の場合は「1 人で声に出して読む」であり、ペアの場合は「ALT と話をする」、グループの場合は「グループで長い文を読む」であった。全学年において、長い英文を読むことに対して苦手意識が高いことが明らかになっている。「長い文」や「文法学習」が苦手な意識の原因となりうることから、長文読解が楽しめる活動（例：extensive reading）や文法活動が楽しいと思えるような活動や教育的介入を行っていくことができれば、苦手意識の克服に繋げていける可能性がある。

本調査においては、更に、「英語で苦手だと感じることについて（つまずきの意識）」も探っている。中学 1 年生は、1) 「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」2) 「単語を書く」、3) 「英語で文章（単文）を書く」であった。中学 2 年生と 3 年生については、1) 「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」、2) 「英語で書かれた文章（ある程度まとまりのある）を読む」、3) 「授業で習った英



文（ある程度まとまりのある文章）を読んでその意味がわかる」について、つまずきの意識が高いことが明らかになった。「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」については、中学1年生～3年生にかけての全学年がつまずきの意識を持っていることから、長文を書く場合においては、苦手意識が強くないようなタスクや活動が必要であり、それぞれの段階に応じた「足場かけ」が必要となろう。

本調査においては、更に、つまずきの意識に関する理由について、その理由についてラベル化を行っている。つまずきの意識に関する理由については、1年生では「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」「英語で文章（単文）を書く」「単語を書く」に対して苦手意識があり、その理由をラベル化したところ「単語を覚えることに対するつまずき」「スペルに対するつまずき」「単語の読みに関するつまずき」が多く見られた。次に、2年生においても、つまずきの理由をラベル化したところ「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」「単語を書く」「英語で書かれた文章（ある程度まとまりのある文章）を読む」に対して苦手意識が高く、その理由をラベル化したところ「単語を覚えることに対するつまずき」や「文法に関するつまずき」であると多くの記述が寄せられた。3年生については、「英語で文章（ある程度まとまりのある）を書く」「英語で書かれた文章（ある程度まとまりのある文章）を読む」「単語を書く」であり、その理由をラベル化した結果、「文法に関するつまずき」「スペルに関するつまずき」「意味が理解できないことに対するつまずき」について多くの記述が見られた。生徒たちの苦手意識を克服するためには、単語については「書く」「読む」「スペルを覚える」ための学習者が好む活動を探り介入していくことが、単語については苦手意識の克服に繋がる可能性がある。更に、文法につまずいている生徒や理解ができていない生徒に対して「つまずき」を早期に発見し、克服することができれば、英語苦手意識の低下に繋がる可能性がある。長文読解やある程度長い文を書く活動についても、生徒達が楽しめる活動の導入への工夫や適切な「足場かけ」を行っていくことが、苦手意識の克服に繋がる可能性がある。

## 11. 今後の展望

今後の課題としては、科学的手法を用いた量的・質的研究方法を用いて、英語苦手の要因を明らかにし、適切な教育的介入を行うことで、英語苦手意識の克服のきっかけとなりうることを期待する。「英語が苦手」と思うことなく「英語は楽しい」と思えることでより多くの生徒が英語を楽しく学習し、言語運用能力・動機付けや情意面を高めていくことが可能となり、ひいては、次世代グローバル化に対応しうる人材育成の可能性へと繋げたい。





## 12. 参考文献

- Deci, E. L., & Ryan, R.M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. NY: Plenum.
- Deci, E. L., & Ryan, R.M. (2002). *Handbook of self-determination*. Rochester: University of Rochester Press.
- Hiromori, T. (2006). *Gaikokugo no doukizuke wo takameru riron to jissen*. [Foreign language learner's motivation: research and practice]. Tokyo: Taiga syuppan.
- MacIntyre, P. D., Clément, R., Dörnyei, Z., & Noels, K. (1998). Conceptualizing willingness to communicate in a L2: A situational model of L2 confidence and affiliation. *The Modern Language Journal*, 82, 545–562.
- Nishida, R. (2008). An investigation of Japanese public elementary school students' perceptions on motivation and anxiety in English learning: A pilot Study comparing 1<sup>st</sup> to 6<sup>th</sup> grades. *Language Education & Technology*, 45, 113–135.
- Nishida, R., & Yashima, T. (2009). An investigation of factors affecting willingness to communicate and interest in foreign countries among young learners. *Language Education & Technology*, 46, 151–170.
- Ryan, S. (2009). Self and identity in L2 motivation in Japan: The ideal L2 self and Japanese learners of English. IN Z. Dörnyei, & E. Ushioda (Eds.), *Motivation, language identity and the L2 self*. Bristol: Multilingual Matters.
- Yashima, T. (2002). Willingness to communicate in a second language: The Japanese EFL context. *The Modern Language Journal*, 86, 55-66.
- Yashima, T. (2004). *Gaikokugo communication no jyoui to douki*. [Motivation and affect in foreign language communication]. Osaka: Kansai University Press.
- Yashima, T., Zenuk-Nishide, L., & Shimizu, K. (2004). Influence of attitude and affect on willingness to communicate and L2 communication. *Language Learning*, 54, 119–152.
- 英語検定協会 (2003). 英検 Can-Do リスト. Retrieved from <http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/cando/> January 12, 2015.
- 川喜田二郎(1986). KJ 法-渾沌をして語らしめる. 中央公論社.
- 文部科学省(2014). グローバル化に対応した教育改革実施計画について. Retrieved from [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1343704.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1343704.htm). July 20, 2015.



## 13. APPENDIX

### APPENDIX A.

自律性	英語のクラスで勉強したことは、とても興味があるので、自分でもすすんで勉強していると思います。	全学年
	英語のクラスで勉強した歌を、自分でも練習しています。	
	英語のクラスで勉強したことをもっと知りたいので、自分でも進んで勉強しようと思います。	
	英語のクラスで勉強した言葉をうちの人や友達に教えてあげていると思います(犬はドッグとか)。	
有能性	英語のクラスでは、「できた」と思うことがあります。	
	英語のクラスでは、「よくできた」とほめてもらっていると思います。	
	英語のクラスでは、「よくがんばった」と思います。	
関係性	英語のクラスでは、自分は、いっしょうけんめい頑張っていると思い、うれしくなります。	
	英語のクラスでは教室の中でクラスのみんなが、なかよくしていると思います。	
	英語のクラスでは、グループで活動することがあるとき、協力しあえていると思います。	
	英語のクラスでは、クラスのみんなが、楽しそうにしていると思います。	
内発的動機	英語の時間では、クラスのお友達に教えあったりして、お友達同士で学びあっていると思います。	
	英語は好きだと思いますか？	
	英語は楽しいですか？	
外国への関心	英語をこれからも続けたいと思いますか？	
	世界の国について知ろうと思います。	
	外国や文化を知るうえで、英語は大切だと思います。	
L2WTC	外国に住んでみたいので、英語を学ぶことは大切です。	
	英語のクラスでは、たくさんのお友達とお話をします。	
理想自己	英語のクラスでは、よくお友達とお話をします。	
	将来、英語が話せる人になるだろうと思います。	
	将来のことを考えると英語を勉強することは大切だと思います。	
CanDo 読む	将来、自分の夢がかなったら、英語を自由に話せるようになっていると思います。	
	アルファベット(A-Z)を読むことができる。	1年生
	アルファベットの太文字・小文字がわかる。(Aとa/Fとfなど)	
	日常生活の身近な単語を理解することができる(例: dog/eat/happy)	
日常生活の身近なことを表す簡単な文を理解することができる(例: I play tennis every day.)		
CanDo 書く	アルファベットを活字体(教科書や本などの字体)で書くことができる(ABC・・・XYZ)	
	アルファベットの太文字・小文字や符号を適切に使うことができる。(A/a、?、! など)	
	自分の名前を書くことができる。	
	日常生活の身近な単語を書くことができる(例: dog/eat/happy)	
CanDo 読む	数字を英語で書くことができる。(例: five/eleven)	
	短い手紙(Eメール)を理解することができる。(家族の紹介、旅行の思い出など)。	2年生
	イラストや写真のついた簡単な物語を理解することができる(子供向けの絵本など)。	
	日常生活の身近なことを表す分を理解することができる(例: Ken went to the park and played soccer with his friends.)	
	公共の施設などにある簡単な表示・雑時を理解することができる(例: No Smoking/ Closed/ No Dogs)	
簡単な英語のメニューを理解することができる。(ファーストフードレストランにあるメニューなど)		
CanDo 書く	短い分であれば、英語の語順で書くことができる(名前、住んでいるところ、家族など)	
	語句をならば手短いメモを書くことができる(例: birthday party at 6 p.m.)	
	文と文を接続し(and/but/so/when/becauseなど)でつなげて書くことができる。	
	日付や曜日を書くことができる。	
CanDo 読む	興味・関心のある話題に関する簡単な文章を理解することができる。	3年生
	日常生活の身近な話題についての文章を理解することができる(スポーツ、音楽等)。	
	短くて簡単な物語を理解することができる(簡単な伝記や童話等)。	
	日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解することができる(学校の話題図書、学習者向けの物語など)。	
CanDo 書く	簡単に書かれた英語の地図を見て、通りや店、病院などを探すことができる。	
	簡単な自己紹介の文章を書くことができる(名前、住んでいるところ、家族など)。	
	自分の趣味について、書くことができる。	
	物事の「好き」「嫌い」とその理由を書くことができる(食べ物、スポーツ、音楽など)	
	短い日記を書くことができる(1文から3文程度)。	
簡単なカードやはがきを書くことができる(誕生日カード、絵はがきなど)		
短い伝言を書くことができる(例: Ken called at 3 p.m.)		



★成績には関係しませんので、みなさんが英語について思っていることをできるだけ正直に教えてください★

35	<p>●授業や学校以外の毎日の生活の中で、「英語」を楽しんでいると感ずること 1. はい 2. いいえ はありますか？</p>
	<p>《楽しいと思う理由を書いてください》</p>

36	<p>●英語の授業中に楽しいと感ずる活動は何ですか？ あてはまる活動に○をしてください (複数回答可)</p>										
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 1人で単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. 1人で文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 1人で長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. 1人で短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 1人で作文を書く</td> <td style="border: none;">6. 1人でドリル練習をする</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 1人で声に出して読む</td> <td style="border: none;">8. 1人でリスニングをする</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9. スピーチや発表をする</td> <td></td> </tr> </table>	1. 1人で単語を学ぶ	2. 1人で文法を勉強する	3. 1人で長い文を読む	4. 1人で短い文を読む	5. 1人で作文を書く	6. 1人でドリル練習をする	7. 1人で声に出して読む	8. 1人でリスニングをする	9. スピーチや発表をする	
	1. 1人で単語を学ぶ	2. 1人で文法を勉強する									
	3. 1人で長い文を読む	4. 1人で短い文を読む									
5. 1人で作文を書く	6. 1人でドリル練習をする										
7. 1人で声に出して読む	8. 1人でリスニングをする										
9. スピーチや発表をする											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. ペアで単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. ペアで文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. ペアで長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. ペアで短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. ペアで会話をする</td> <td style="border: none;">6. ペアで声に出して読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. ALTと話をする</td> <td></td> </tr> </table>	1. ペアで単語を学ぶ	2. ペアで文法を勉強する	3. ペアで長い文を読む	4. ペアで短い文を読む	5. ペアで会話をする	6. ペアで声に出して読む	7. ALTと話をする				
1. ペアで単語を学ぶ	2. ペアで文法を勉強する										
3. ペアで長い文を読む	4. ペアで短い文を読む										
5. ペアで会話をする	6. ペアで声に出して読む										
7. ALTと話をする											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. グループで単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. グループで文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. グループで長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. グループで短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. グループで会話をする</td> <td style="border: none;">6. グループで声に出して読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. グループで話し合いをする</td> <td></td> </tr> </table>	1. グループで単語を学ぶ	2. グループで文法を勉強する	3. グループで長い文を読む	4. グループで短い文を読む	5. グループで会話をする	6. グループで声に出して読む	7. グループで話し合いをする				
1. グループで単語を学ぶ	2. グループで文法を勉強する										
3. グループで長い文を読む	4. グループで短い文を読む										
5. グループで会話をする	6. グループで声に出して読む										
7. グループで話し合いをする											
<p>《その他に楽しいと感ずることがあれば、書いてください》</p>											

37	<p>●英語の授業中に苦手だと感ずる活動は何ですか？ あてはまる活動に○をしてください (複数回答可)</p>										
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. 1人で単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. 1人で文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. 1人で長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. 1人で短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. 1人で作文を書く</td> <td style="border: none;">6. 1人でドリル練習をする</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. 1人で声に出して読む</td> <td style="border: none;">8. 1人でリスニングをする</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9. スピーチや発表をする</td> <td></td> </tr> </table>	1. 1人で単語を学ぶ	2. 1人で文法を勉強する	3. 1人で長い文を読む	4. 1人で短い文を読む	5. 1人で作文を書く	6. 1人でドリル練習をする	7. 1人で声に出して読む	8. 1人でリスニングをする	9. スピーチや発表をする	
	1. 1人で単語を学ぶ	2. 1人で文法を勉強する									
	3. 1人で長い文を読む	4. 1人で短い文を読む									
5. 1人で作文を書く	6. 1人でドリル練習をする										
7. 1人で声に出して読む	8. 1人でリスニングをする										
9. スピーチや発表をする											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. ペアで単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. ペアで文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. ペアで長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. ペアで短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. ペアで会話をする</td> <td style="border: none;">6. ペアで声に出して読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. ALTと話をする</td> <td></td> </tr> </table>	1. ペアで単語を学ぶ	2. ペアで文法を勉強する	3. ペアで長い文を読む	4. ペアで短い文を読む	5. ペアで会話をする	6. ペアで声に出して読む	7. ALTと話をする				
1. ペアで単語を学ぶ	2. ペアで文法を勉強する										
3. ペアで長い文を読む	4. ペアで短い文を読む										
5. ペアで会話をする	6. ペアで声に出して読む										
7. ALTと話をする											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1. グループで単語を学ぶ</td> <td style="width: 50%; border: none;">2. グループで文法を勉強する</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3. グループで長い文を読む</td> <td style="border: none;">4. グループで短い文を読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5. グループで会話をする</td> <td style="border: none;">6. グループで声に出して読む</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7. グループで話し合いをする</td> <td></td> </tr> </table>	1. グループで単語を学ぶ	2. グループで文法を勉強する	3. グループで長い文を読む	4. グループで短い文を読む	5. グループで会話をする	6. グループで声に出して読む	7. グループで話し合いをする				
1. グループで単語を学ぶ	2. グループで文法を勉強する										
3. グループで長い文を読む	4. グループで短い文を読む										
5. グループで会話をする	6. グループで声に出して読む										
7. グループで話し合いをする											



38	<b>●あなたが苦手だと感じることについて、あてはまるものを番号で選び、その理由を書いてください。理由がわからなければ番号だけを選んでください。質問に出てくる「単語」や「英文」は、既に学校で習ったことがあるものとして答えてください。</b>
	1. アルファベットの大文字を読む 理由:
	2. アルファベットの小文字を読む 理由:
	3. 単語を読む 理由:
	4. 英語で書かれた文章(単文)を読む 理由:
	5. 英語で書かれた文章(ある程度まとまりのある文章)を読む 理由:
	6. 単語を見て、その意味がわかる 理由:
	7. 授業で習った英文(単文)を見て、その意味が分かる 理由:
	8. 授業で習った英文(ある程度まとまりのある文章)を読んで、その意味が分かる 理由:
	9. アルファベットの大文字を書く 理由:
	10. アルファベットの小文字を書く 理由:
	11. 単語を書く 理由:
	12. 英語で文章(単文)を書く 理由:
13. 英語で文章(ある程度まとまりのある)を書く 理由:	

39	<b>●英語を使ってどんなことができるようになりたいですか</b>
----	-----------------------------------

40	<b>●その他で、英語にかかわることで、何かあれば自由にかいてください。</b>
----	--

ありがとうございました！これからも頑張ってください！